

## 子ども・子育て審議会及び計画部会における 骨子案への主な意見と対応状況

### 1 骨子案の審議状況

- ・広島県子ども・子育て審議会計画部会（令和元年8月21日開催，委員10名出席）
- ・広島県子ども・子育て審議会（令和元年9月6日開催，委員17名出席）

### 2 骨子案への主な意見と対応状況

#### (1) タイトル，対象などについて

	項目	意見※1	対応状況
部会	領域のタイトル	・領域Ⅰに「主体的」と入れてはどうか。 ・領域のタイトルに方向性を入れたほうが良い。	領域の中にある施策の「柱」に記載
	プランの対象	概ね18歳以下というのは曖昧な表記であり，補足を入れるなど工夫が必要である。	概要版(P1)，総論「プランの対象」(P3)に補足を記載※2
	プランのタイトル	次期プランのタイトルについて，子供というワードを入れ込んだ方が良い。	プランの名称を変更
審議会	子どもの貧困計画	どの部分に盛り込んでいく予定か見えない。	資料編に計画の内容を記載(P105)

※1 意見は簡潔に記載するため抜粋・要約

※2 該当箇所が複数頁に及ぶ場合，最初の頁を記載（以下同じ）

#### (2) 取組内容について

#### 【領域Ⅰ『子供たちが健やかにたくましく育ち，生きていく力の育成』に関するもの】

	意見	対応状況 (関係する取組の方向等の記載場所)
部会	保育の質についてもしっかりと書き込んでほしい。	領域Ⅰ柱1(1)(P29) 領域Ⅱ柱2(1)(P59)
	・乳幼児期には，乳幼児期に適切な遊びや実体験を提供するべき。	領域Ⅰ柱1(P29) 領域Ⅱ柱2(1)(P59)
審議会	・乳幼児期は重要であり，知恵を出して取り組んでいかないといけない。	
部会	自分で判断してチョイスできるようになることが大事である。	領域Ⅰ全体(P26)
	・SCは不登校の数が減る等の効果が上がっているように感じない。 ・中山間地域にもSSWがいきわたるといことが大事。	領域Ⅰ柱2(2)(P38)

#### 【領域Ⅱ『子供たちが生まれ育つ環境』に関するもの】

	意見	対応状況 (関係する取組の方向等の記載場所)
部会	・いわゆる「予備軍」にあたる家庭に何かしらの手を差し伸べられないか検討してほしい。	領域Ⅱ柱1(1)(2)(P51) 領域Ⅰ柱1(P29)
	・母親になる瞬間から，虐待などの全てのリスクが生じる。母親になる前にいかに心の準備をしておけるかが大事。	
審議会	・子供を育てるには，費用がかかることを知る機会がなさすぎる。 ・中学生・高校生，大学生が子供の発達について学ぶ機会が必要。 ・児童虐待は予防が重要である。	

	意見	対応状況 (関係する取組の方向等の記載場所)
部会	・小児科医として特定妊婦等の情報を持っておらずケアしたくてもできない。関係機関同士の情報共有を進めていかなければならない。	領域Ⅱ柱1(1)(2)(P51)
審議会	・ネウボラの中に助産師のネットワークも組み込んでもらいたい。 ・乳幼児健診の未受診率は0%でなくてはならないと考えている。 ・乳幼児健診に行けない、行かない理由は行政側に課題があるのではないかという視点も持つべき。 ・全ての子育て家庭を漏れなく継続的に把握するためには人員確保が必要。	
部会	学校内での暴力行為発生件数の低年齢化が続いており、福祉ももっと連携を取っていてもよいのではないか。	領域Ⅱ柱1(1)(P51)
	スマホ育児の害を知らずにやっている親がほとんどで、子供が生まれる前に知っておかなければならない。	領域Ⅱ柱1(2)(P53)
審議会	保育の人材確保は喫緊の課題となっている。	領域Ⅱ柱2(1)(P59)
	最近、外国人の子供たちが増えてきている。これから5年後、10年度を見据えると重要な視点ではないか。	領域Ⅱ柱2(1)(P59) 領域Ⅰ柱2(4)(P42)
	子供たちが様々な直接的な体験ができる環境を整えるのは、行政だけでなく、しっかりと地域で担えるよう環境を整えていただきたい。	序章(P4) 領域Ⅱ柱2(2)(P61)
部会	・学齢期の子供の放課後の居場所も、しっかりと取り組んでほしい。 ・子供の居場所が少しでも増えるような取組を進めて行ってほしい。	領域Ⅱ柱2(2)(P61)
審議会	・子供の経験を養う機会が失われている。 ・貧困等でなくても、家族で過ごす居場所がなくて困っていることがある。子育てサークル等家族で過ごせる仕組みへの支援が必要。	
	・子供は集団で生活することも重要で、スポーツ少年団のような、放課後にもそういった力を養える仕組みを整えていかなければならない。	領域Ⅱ柱2(2)(P61) 領域Ⅰ柱2(5)(P44)
	・子育てしやすい働き方にしていけないと子供が厳しい状況になる。 ・父親の視点が見えてこない。父親も関わっていかなければならない。 ・両立の推進は、事業主の負担増につながり難しい環境にある。	領域Ⅱ柱3(P64)

【領域Ⅲ『特に配慮が必要な子供たちが自らの可能性を最大限高めることができる環境』に関するもの】

	意見	対応状況 (関係する取組の方向等の記載場所)
部会	虐待を受けても被害回復を受けられる視点を入れ込んでほしい。	領域Ⅲ柱1(2)(P80)
	虐待死ゼロという指標を立てることについて良いと思うが、もっと具体的な指標を追ってほしい。	領域Ⅲ柱1(P79)
	要対協という仕組みはしっかりと活かして取組を進めて行ってほしい。	領域Ⅲ柱1(3)(P82)
	養育里親と専門里親をどう増やしていくかについては、しっかりと検討していく必要がある。	領域Ⅲ柱2(1)(P85)
	ひとり親家庭の親の就業率について、どう収入を上げるかが大事であり、仕事と子育ての両立支援に取り組むべきである。	領域Ⅲ柱3(2)(P96)
審議会	ひとり親世帯の収入を上げる支援を検討していただきたい。	
部会	医療的ケア児をいざという時に預けられる場所がないと感じている。是非考慮してほしい。	領域Ⅲ柱4(1)(P99)
	特別支援教育において就職後に離職するケースも多い。子供本人がたくましく成長し、楽しく暮らしている将来を目指しているはずであり、そのような指標を掲げるべきではないか。	領域Ⅲ柱4(4)(P103)